

「知事とのフレッシュトーク」（平成26年8月27日実施）の概要について

「知事とのフレッシュトーク」は、知事が高校生の皆さんと県の未来について意見交換を行うものです。

平成26年8月27日（水）に弘前市の県立弘前中央高等学校において実施した「知事とのフレッシュトーク」の概要をお知らせします。

青森県立弘前中央高等学校の概要

明治33年、青森県第一高等女学校として創立。

明治42年、青森県立弘前高等女学校に改称。

平成9年、普通科、男女共学開始。

弘前公園のお濠に面しており、生徒は古都の四季を感じながら、恵まれた環境の中で高校生活を送っている。平成22年に創立110周年を迎えた「歴史」と「伝統」のある高校である。

◆開催◆

【校長歓迎のことば】

三村知事、本日はありがとうございます。

青森県内の高校生が将来の夢、また青森県の未来について三村申吾知事と語り合う「未来デザイン県民会議～知事とのフレッシュトーク～」が本日、ここ弘前中央高校で開催されることになりました。

三村知事は教育、人づくり分野において、「ふるさとに誇りを持ち、未来を切り拓く人づくり」を施策の戦略キーワードに掲げ、青森の未来を創る人財の育成に積極的に取り組んでおります。「人財」という字は、人の財（たから）という意味で、材料の「材」ではなく、財産の「財」を使用しております。

本日は公務ご多忙の中、弘前中央高校にお越しくございました。語りあう生徒は5名ですが、青森県のリーダーとして知事がお考えになっていることを聞くことは、皆さんの進路選択の参考になる非常によい機会だと思っております。

本日の三村知事とのフレッシュトークを通じて、皆さんが青森県の未来を創り、地域社会に貢献する人財になることを期待して挨拶いたします。今日はよろしく願いいたします。

【知事あいさつ】

皆さん、こんにちは。今日のフレッシュトークを楽しみにしていました。夏休み明けに早速ありがとうございます。

夏休みは、楽しみましたか。自分が高校生の頃の夏休みは、勉強があったり、学校に来たりしましたが、本当に楽しかったです。皆さんも、素晴らしい夏休みをそれぞれに送ってくれたと思います。

そしてまた3年生にとっては、いよいよいろいろな意味で自分の人生を決めて、前に一

気に進んでいくという夏休みだったと思います。自分自身今でも思うことは、高校時代の友達は、一生付き合う、とても大事な友達が多いです。そういった友達との夏休みのいい思い出、勉強や部活など、いろいろなことがあったと思いますが、そういうことを大切にしてほしいと思います。

今週から学校が始まりましたが、今日こうして皆さんとお話できることが、とても嬉しいです。もう11年間こうして高校生の皆さんに、それぞれの夢を語っていただいたり、あるいは疑問に思っていること、おかしいと思うこと、直してほしいことなど、いろいろなこととお話いただいています。

今日は高校生の皆さんからアイデアをいただいて、しっかりと県政の中に活かしていきたいという思いでお邪魔させていただきました。

中南地域県民局長をはじめとして、現場を担当している職員、そして皆さんの質問事項に関係する職員も来ています。お互いにいい意見交換をして、楽しい一日にしたいと思います。よろしくお願いします。

◆生徒と知事との意見交換◆

【意見交換】

司会

今回の大きなテーマは、「青森県の未来について考える」ということで、今ここにいます5人の発言者達は、青森の未来のため、自分が暮らす青森をよりよくするため、という思いで参加してくれました。意を決して参加してくれた発言者達に大きな拍手をお願いします。

まず、最初のテーマは「青森県のブランド化」についてです。それではお願いします。

発言者1（3年、女子）

三村知事に一つ質問があります。生産量が日本一の県産品って何か分かりますか。

知事

たくさんありますが、一つだけあげるとりんごです。知事は、りんごセールの帝王と言われていています。

発言者1

他の生徒にも聞いてみます。県産品で日本一の生産量があるのは何か分かりますか。

生徒1

ごぼう。



知事

大正解。ごぼうは、九州の市場ですごい人気です。青森県の人が美白なのは、ごぼうの力です。

発言者 1

私は、鶴田町出身です。鶴田町にも日本で一番生産量がある県産品があります。

知事

鶴田で日本一は、スチューベン。

発言者 1

正解です。

知事

お正月も食べられる鶴田のぶどうです。皆さん覚えていてください。日持ちが良くて、本当に正月になっても食べられます。

発言者 1

でも、これってあまり皆さん知らないことなんです。こういうことが青森県全体としても言えると思います。観光地で言えば三内丸山遺跡や世界遺産に登録されている白神山。食べ物だと三村知事が言ったりんご、ごぼう、長芋などがあります。こういうものが全国にはあまり知られていないので、これを全国の皆さんに知ってもらおうという意味で、今回私のテーマに設定した「青森県のブランド化」について、話し合っていきたいと思っています。よろしくお願いします。

知事

プレゼンテーションの持っていきかたが上手ですね。将来、大学を卒業したら、有名な広告代理店を受けてみたらどうですか。

発言者 1

ありがとうございます。

まず、「ブランド化」について三村知事が具体的にどのように思っているのかをお聞きします。

知事

大事な質問が出たと思います。県は、新しい青森県の基本計画を「未来を変える挑戦」としました。昨年度までの5年間は、「未来への挑戦」ということで実施してきました。そうしたら、政府が同じようなことを言いました。県では、「攻めの農林水産業」に11年間取り組んできましたが、政府が、また同じキャッチコピーを使い始めました。実は、青森県は様々な新しい概念の先進県だと思っています。

「青森ブランド」とは何か、「世界が認める青森ブランドの確立」ということを、今回、基本計画「未来を変える挑戦」の大きなテーマとしました。でもブランドって何でしょう。

発言者 1

自分で誇れるものです。

知事

いい線いっています。シャネルを知っていますか。私は昨年度、世界的なブランドであるシャネルの社長さんと対談して、「ブランド」とは何かをものすごく簡単に教えてもらいました。常に本物であること、正直に作られた本物であることだと言われました。とても簡単な言葉ですが、とても難しい。自分たちの作っているりんごが、消費者に対して常に、どういう形が正直なのかを考えたとき、枝を整え、葉っぱを取り、土づくり、水づくりから丹念にやるということが必要ですと教えてもらいました。

我々青森県民の特徴で素晴らしいところは、生真面目なところですよ。こつこつ生真面目に何にでも取り組む。だから、この11年間、りんごのアロハシャツを着て自らセールスを行っています。「青森県産品の特徴は何ですか。」と聞かれると、「青森の正直です。」と答えてきました。その点は、シャネルの社長さんがおっしゃったこととすごく近いと思います。

だから、「決め手は青森県産品」だと。水づくりや、日本一健康な土づくり、そして生産者1人1人がすごく本気で、自分の物に愛情を込めて作って、それを消費者に届けたいという思いでやっています。そういった食べ物や生産品についてのブランド化ということがまずは言えると思います。

また、我々の十和田湖、奥入瀬溪流が、昔から国際観光地と言われています。白神山地が、世界自然遺産だと言われています。でも、これら青森県の価値が本当に伝わっているのでしょうか。

青森の人が行っている生業、生き方、暮らし方というのは、面白いと思います。青森には、世界最高のプリズムを作っているものすごい人たちがいます。青森県で生産されたジーンズでなければ買わない会社もフランスにはあります。オリンピックの服を縫製している会社もあります。世界ブランドとは言えないですが、大鱈町の温泉もやしもすごいと思います。要するに青森の「生業（なりわい）」と「生活」の生み出す価値、青森の人達がいろんなことをしていること、作っていること、生き方、そういった青森の生業と生活が生み出す価値が、世界に貢献し認められている状態を目指し、そんな青森を伝えたいというのが私たちの思っていることです。

「買ってよし、訪れてよし、住んでよし」。簡単にいうと青森の物を買ってみたら、すごく正直で本物だった。訪ねてみたらホスピタリティが本物で、人と会うたびに嬉しくて、そして、住んでみようと思って住んでみたらまたよかった。そういうことを我々の売りどころにしていきたい、これが「青森県のブランド化」の大きなテーマです。

だから、青森はこんなところだ、こんないい物がいっぱいあるということを、一生懸命、県を挙げてキャンペーンをしています。県庁には青森のことを日本中のメディアに発信していこうという「まるごとあおもり情報発信チーム」というところがあって、この11年

間で1, 600件くらい、広告換算値にすると約700億円のを県外メディアへ情報発信してきました。皆さんも知っていると思いますが、「津軽百年食堂」などは、あれこそが正直な本物なのではないかということで取り上げて、青森のヒットコンテンツというものをどんどんキャンペーン、PRしてきました。

他にもスコップ三味線があります。津軽三味線は皆知っていて、日本の中ではブランドになっていますが、実は津軽三味線だけではなく、スコップも楽器にしてしまう青森の人って楽しいということをどんどん発信してきました。自分自身も毎年トップセールスで、九州、沖縄、四国、大阪、東京などいろいろなところに県産品を持って行って、赤いりんごだけではなく、「トキという黄色いりんごも美味しいんです」とか、ごぼう、にんにく、長芋は全国トップの生産量で、ヒラメもすごいとか、ホタテも実は養殖ではトップということを発信しています。時には「BBシスターズ」という平均年齢76歳の女性たちを連れて行って、一緒に歌ったり、踊ったりしています。青森は短命県だと言われていますが、実はすごく元気で、皆いきいきと生きているということを一生懸命PRしてきました。

県庁の職員も一緒にやってきました。今日は、一緒にセールスに歩いていた職員が来ていますので、青森のものをキャンペーンするというのがどういう意味があったのか、どういう楽しみがあったのかを是非高校生に話してください。

企画政策部広報広聴課職員

知事と一緒に九州、沖縄など、いろいろなところのPRイベントに行かせていただきました。そういうところに行って感じたことは、自分たちが何気なく普段見ているものや食べているものを、九州や沖縄の人が、すごく有難がってください、珍しいというふうに思ってくださいということでした。自分たちが普段感じていること、食べているもの、見ているもの、話している言葉というのをありのままに全国の人に伝えて、もっともっと青森の良さを知ってもらいたいと感じました。



知事

自分たちが自信を持って、これは本物だ、青森のいいものだと思っているものを、どんどん伝えていくということを繰り返していかなければいけないと思います。

例えばこれから東京の大学に進学すると、中には、青森出身ということを隠したり、訛りを隠したりする人もいますが、皆は、普通に津軽弁、「まいねー」とか「めんこい」とか言った方がいいと思います。我々セールスで歩いても、方言や自分たちの言葉をありのままに伝えると、すごく「いいな青森」と皆が応援してくれます。私たちのPRチームが全国を歩いて、「青森のブランド化、青森にはこういういいものがあります、本物があります」ということをPRしてきました。また、観光フェアや企業誘致フェアでも自分で行くシャツを着て行ったり、マグロのシャツを着て行って、美味しいものもあるし、人が一生懸命働く、頑張っている青森ということをPRしてきました。これからも、どんど

ん伝えていきたいと思います。だから、弘前中央高校の皆さんにお願いしたいことは、自信を持つこと。自分たちのこの高校での生き方、あるいはこの青森県民としての生き方、青森で弘前で、きっちりと人生を送ってきたこと。だから、どこに進学しても就職しても、堂々と自信を持って、「青森のいいところはこんなにあります」とどんどん言ってください。とにかく明るく前向きの発想、青森の良さということ、弘前の素晴らしさ、美味しさ、美しさもどんどん良いところを発信してください。ところで、将来の夢は何ですか。

発言者 1

大学でマーケティングを学んで、青森県に帰ってきてブランド化に貢献することです。

知事

いいですね。県庁のまるごとあおもり情報発信チームで君のことを待っています。弘前中央高校の皆さん、どんどん県庁の採用試験を受けてください。よろしくお祈いします。

では、ここで中南地域県民局長から、一言お祈いします。

中南地域県民局長

弘前市を中心とする中南地域には、いろいろないいシーズがたくさんあります。りんごはもちろん日本一、世界一といっても過言ではないと思います。その他にも、さっき話に出た大鱈のもやしなどいろいろなものがあります。こういったものをどんどん全国に売っていきたくて思っています。私たちも、市町村の皆さんも同じ気持ちで同じことを考えていますし、作っている農家の方も、やはりどんどん売っていきたくていう強い気持ちで取り組んでいる人がたくさんいます。そうした方々と一緒に私たちも頑張っていきたいと思ひます。皆さんも自分たちの地元で作っている物を、是非いろいろな人に宣伝していただきたい。いろいろな地域のいい物を食べて、こんな美味しい物があるということを積極的に発信していただけると非常にありがたいと思ひます。よろしくお祈いします。

知事

りんごはもちろん世界でトップを走っていますが、例えば、弘前にはブナコがあります。ニューヨークやロンドンの超一流ホテルのインテリアグッズ、例えばゴミ箱やティッシュケースがブナコだったりします。また、JRに新しい寝台列車ができますが、その中にもブナコを使う予定になっています。津軽塗も、ヨーロッパの王族、貴族の方たちが使うものに採用されるなど、世界に通じるものになっています。ということでブランド化を頑張っていきましょう。

司会

続ひてのテーマは「短命県の克服について」ですが、その前に、小さい頃に抱ひていた夢は何ですか。



発言者2（2年、女子）

私の小さい頃の夢は、120歳まで生きることでした。

しかし、現在私たちの住む青森県は、厚生労働省による平均寿命調査で、男女共に最下位という現状です。

知事

そう、悲しいです。私もテレビなどで短命県返上をPRしています。

発言者2

その原因として主に運動不足が挙げられ、特に雪のある冬は、ウォーキングの量が減るそうです。そこで、駅や街中でウォーキング環境を整え、ウォーキングを奨励するキャンペーンを実施してはどうでしょうか。長寿県である長野県は、PPK運動を行っていて高齢者でも元気に働き、地域の中でオリジナル体操をするなどの活動があるそうです。青森県もそういう企画をどんどん実施してみてもどうでしょうか。

知事

PPK運動とは、ピンピンコロリ運動のことですね。

運動不足の話がありました。皆さんにはまだ関係ないことですが、青森県は酒、タバコ、塩で困っています。

お酒は飲んでもいいですが、日本一飲酒する県にはならないようにしてほしいと思っています。

また、タバコは吸ってはいけません。県庁では、庁舎の建物内は、禁煙にしています。

食塩摂取量は、ずっと全国1番か2番でしたが、かなり食生活改善運動などを行って、今年は7番位ということです。酒、塩、タバコと、健診受診率が非常に低いことが課題です。健診は、自営業や農家など一次産業の人たちがなかなか受診してくれないということが課題です。

そこで、ヘルスプロモーションカーという車を使って、仕事が休みの時に保健師さんたちが巡回診療や健診に出向いています。昨年までは県内に3台でしたが、6台増やして、合計9台になりました。酒、塩、タバコ、健診に行かないという課題がありますが、弘前大学などのご協力もあり、平均寿命も伸びてきています。最近、男性の方の平均寿命が伸びています。伸びてはいますが、いまだ全国最下位です。

また、県内の死亡者の死因の3分の1は、がんです。そこで、東京にある国立がん研究センターの病院長を県立中央病院にスカウトしてきて、抜本的な対策に取り組んでいます。病気というのは生活習慣の影響が大きく、肥満体質、糖尿体質になっていると、なかなか治療も難しいです。食塩の摂取量も減ってきていますが、まだまだ多いです。どうしても酒とタバコが我慢できない人は、野菜をどんどん食べてください。究極の決め手は野菜です。長野県も実はしょっぱいものを食べたり、結構お酒を飲んでいますが、野菜の摂取が本県より多いです。そのため、トマトだとあと1個、きゅうりだとあと1本食べてくれると、青森県の人でも元気になります。

次に、ウォーキングの話が出ました。皆さん、デューク更家さんを知っていますか。ウ

ウォーキングドクターのデューク更家さんが、この間、イオンモールつがる柏に来た時に、歩き方の指導を受けて私も歩きました。猫背になっていると、歩き方が悪くなります。ところが、指導を受けたとおりに歩くととても楽に歩けることがわかり、びっくりしました。正しい歩き方を学ぼう、あと1千歩とか1万歩歩こうということで、第2、第4の火曜日にデューク更家さんの弟子が来て、イオンモールつがる柏でお父さん、お母さんに正しい歩き方を指導しています。そこで、今日は県庁から専門家が来ていますので、聞いてみます。

健康福祉部がん・生活習慣病対策課職員

皆さんは、高校生の頃から健康に気をつけようという提案をされたということで、大変素晴らしいと思います。今、青森県は平均寿命を延伸するために、知事をはじめ、皆で頑張っているところです。健やか力を向上させようということで、マモルさんというキャラクターを使ったCMを放送しています。朝のテレビの情報番組の合間にも時々流れています。そのマモルさんの着ぐるみを作りました。学園祭の時などに、使っていただければと思います。皆さんの健康が一番です。そして、家族の健康。そうすれば県民全体が健康になると思いますので、よろしくお願いします。

知事

具体的に言うと、酒、塩、タバコに気を付けて、それ行け健診ということです。そして、運動。プロのように本格的に運動しなくてもいいので、体を動かすということがすごく大事だと思います。昨年度、長野県と沖縄県を招いて、「第1回平均寿命サミット」を開催しました。沖縄県の方によると、沖縄県の高齢者の方はとても健康ですが、40才以下の方たちは、揚げ物類を食べたり、揚げ物をはさんだものを食べる方が多いためか、健康状態が劇的に悪くなっているそうです。でも、お互いに長野県を追い越そうと、サミットで話し合いました。今年は沖縄県でサミットを開催しましたが、食べ物のことを真剣に考えよう、そしてちょっとした運動のことを考えよう、特に野菜を食べること、1日1個のりんごを食べよう、そういうことに気を付けて、健康づくりを頑張りたいと思っています。何かアドバイスありませんか。

発言者2

では、2つ。まず、毎年やっているサラリーマン川柳のような雰囲気でもウォーキングを進める川柳を募集するのはどうでしょうか。一つ考えたものがあります。「雪道で 鍛える体 たまる金」です。バスを使わないで歩けばですが。

知事

「雪道で 鍛える体 たまる金」いいですね。その金をどうぞ青森県に納税し



てください。

発言者 2

募金するなどして経済を変えていけばいいと思います。次にオリジナル体操があるので、それを今、多くの人を持っているスマホのアプリにするのはどうでしょう。

知事

なるほど。

健康福祉部がん・生活習慣病対策課職員

大変参考になります。今月の30日、土曜日に「健康あおもり21ステップアップ県民大会」を開催します。AKB48の「恋するフォーチュンクッキー」を振り付けしたパパイヤ鈴木さんが来ます。30キロ痩せたパパイヤ鈴木さんが来て、津軽弁のラジオ体操をすることになっています。津軽弁のラジオ体操を聞いたことがありますか。マモルさんも一緒にやります。そういうアイデアをいただきながら、短命県の克服を進めていきたいと思えます。

知事

県を挙げていろいろと取り組んでいます。さて、将来の夢をもう一度語っていただけますか。

発言者 2

知事のあとを継ぐくらいの人になりたいです。

司会

続いてのテーマは「青森への誇りと愛着を持つことによる活性化」です。青森への誇りと愛着ということですが、青森への愛がどのくらいあるのか教えてください。

発言者 3（2年、女子）

私は、この弘前中央高校の中で、多分一番青森、そして弘前を愛していると思います。私は青森を活性化させるには、青森に愛着を持ち、青森を誇りに思うことが大切だと思っています。今年のゴールデンウィークに中央高生も愛用しているヒロロスクエアで「ヒロロで出会う白神の食」という物品販売会に行く機会がありました。そこではりんご以外の県産品の実演販売や試食販売が行われ、私の知らない様々な特産品や美味しい料理などに会うことができました。そして私も地元に対する愛情がとて大きくなったことを今でも覚えています。

そこで、この物品販売を弘前さくらまつりなどの会場で開催してはどうかと思いました。県外からの観光客の皆様に加え、県民にも広く知ってもらえる機会となるのではないのでしょうか。特に私たちのような若い年代は、郷土料理や地元で伝わる特産品を使った料理は、

あまり知らないと思うので、それに触れる良い機会になると思います。それにより私の他にも地元に着愛を持ち、弘前、さらには青森を誇りに思える若者が増えると思います。そしてこのことが地元を活性化させる原動力のひとつになるのではないのかなと思ったのですが、三村知事はどうお考えでしょうか。

知事

非常に嬉しいことを発言していただきました。

平成19年に「あおもりを愛する人づくり戦略」というものを作りました。一番の県政の課題は短命県、命を守るということなんだけれども、その他に産業雇用、働く場が少ない青森県ということがあります。300社近く企業を誘致して働く場を作ってきましたが、まだまだ、青森での働く場が少ないという課題があります。その産業雇用、命を守る仕組み、そしてもうひとつ県政の大きなテーマが人財です。青森のことが好きで好きでたまらない人、ふるさとがすごく好きな人、これが一番大事な人財だと思います。「好きこそ物の上手なれ」、好きだからこそ頑張っているいろいろなことができます。だから「あおもりを愛する人づくり戦略」を作りました。このことについて、当時関わった職員から少し熱い思いを語ってもらいます。

企画政策部広報広聴課職員

将来の青森県を支えるのは、人、人財です。県の人財育成には、柱が2本あります。1本目は、青森の未来をつくる人財。これは主に青森県が高校生の方を対象にしている事業です。そして、2本目が青森の今をつくる人財。これは皆さん聞いたことがありますか。「あおもり立志挑戦塾」というものがあります。志は夢とは違います。志とは目標を立てて、それを実現していくものです。そういうことをやっているのが、「あおもり立志挑戦塾」です。ですので、皆さんは目標を立てて、それに向かって実現するという意欲を持って取り組んでください。志を持ってください。将来は皆さんの肩にかかっています。よろしくお願いします。

知事

ただ単に目標を作っただけではなく、小学生、中学生、高校生で、それぞれにいろいろなことにチャレンジできる仕組みをいろいろ作りました。あるいは、全国の高校生達と交流できる仕組みもあります。あるいは、奥入瀬溪流に来てもらっているいろいろなことを話し合ったり、全国、世界の人たちと交流できる女性のサミットもやっています。ふるさと青森を愛することの大切さということをテーマにしながら、各世代のために、様々な分野で、もっと学びたい、もっと仲間が欲しい、もっと志をつけたい、そういう方々のためのいろいろな塾を開いています。

基本中の基本は命を守ることと、それぞれ一人一人の暮らし、生業を守ることです。「一年の計は麦を植うにあり、十年の計は木を植うるにあり、百年の計は人を植うにあり」、青森の未来を考えた時に、青森を本当に好きだという人を増やしたいという気持ちで、県庁みんなでいろいろな努力をしています。

企画政策部広報広聴課長

先ほどの意見の中で、青森に愛着を持って青森を愛することが大切だというご意見をいただきました。私もそのとおりだと思います。私が今やっている仕事は、広報ですので、「県民だよりあおもり」という広報紙を作ったり、知事も時々出演しているテレビ広報番組を作ったりしています。是非見ていただきたいと思います。



これは県民だよりの6月号ですけれども、表紙に写っているのは、あおもり藍、藍染です。藍をきれいに染める技術を青森の人が開発したところ、それを東京の有名なデパート、あるいはデザイナーがとても気に入り、このあおもり藍を使ってデニム、Tシャツなどを作り、今全国的に流行っています。ニューヨークでもそうですし、宇宙飛行士の山崎直子さんが宇宙にも持っていきました。そういうあおもり藍、これも青森を愛する心が成せる技です。青森を愛していく気持ちを持ってこういう新しい物を生み出すことは、とても大切だと思いますので、皆さんも、また次のフロンティアとして、頑張ってくださいと思います。

知事

フロンティアという言葉ができました。常に次のフロンティアを目指していくことが、とても大事だと思います。常に好奇心を持ち、そしてそれぞれの愛情も持ち、前へ前へ進んでいく、自分の人生を自分で決めて、夢を切り拓いていく、そういうことがすごく大事だと思います。でも、そのためにこそ、基本にあるものが我々青森県という自分を育んだところへの愛情だとしたら、すごく嬉しいなと思います。ところで、将来の夢は何ですか。

発言者3

将来は、薬剤師になりたいと思っています。

知事

薬剤師は、大変不足しています。是非、県内で就職してほしいと思います。本当に、皆さんに心からお願いしたいと思います。3年生は、目指せ医学部、目指せ獣医師、あるいは目指せ薬剤師。資格を持つと自分で食べていけるし、すごく大事だと思います。自分に自信を持たせるものになります。この資格持っている、これで絶対トップを走っていける、というような気持ちで薬剤師を目指してください。大学で6年勉強しないといけないので大変だと思いますが、そのためには今から数学、化学、生物などの勉強をしっかりと頑張ってください。

司会

続いてのテーマは「南部と津軽の相互理解について」です。

発言者4（1年、女子）

先ほど知事から「青森の正直」と書かれたはっぴを見せていただいて、「青森の正直」という言葉がすごくいいと思いました。私も青森県民なので、今日は正直に言いたいと思います。

私はこのトークの前に、青森県民が他県の方にどう思われているのかを調べました。その結果、暗い、意地っ張りなど、悪い方向にばかり受け取られていることが分かりました。



そこで、私はどうしてそんなに青森県民は悪く思われているのかを調べてみました。県内ではよく知られていると思いますが、青森県は大きく分けて南部、津軽、そして下北の3つに分かれます。私が今回注目したのは、そのうちの2つ、南部と津軽についてです。

私の父は南部の野辺地町出身、母は津軽の青森市浪岡出身なので、私は南部と津軽のハーフなのですが、南部と津軽には大きな違いがいくつかあります。私が特に目をつけたのが、性格の違いです。どちらかという、南部の人たちはおっとりしていて、津軽の人たちはしっかり者というイメージがあります。それは言葉にも影響していて、津軽弁は南部弁に比べて少し速く、たまに怖く感じられることもあるようです。それだけではないと思いますが、南部と津軽の仲がそんなに良くないと昔から言われています。でも、私はその違いを良い方向に捉えることが大切だと思います。

また、新幹線が北海道までつながります。それに伴い、人口流出の問題が考えられますが、防止策や逆に県外からの人の呼び込みなど、何か考えはありますか。また、知事としては県内と県外のどちらに先に目を向けるべきだと考えていますか。

知事

まず前半の部分で、南部と津軽という話が出ました。

皆さん、違いがあるっていいことだと思いませんか。それぞれに違いがあって、違いがあるからこそ何か楽しい、何か話をしてみたいという気持ちになるのだと思います。

津軽と南部で、すごく違いがあるから、それぞれ個性があるからこそ素敵なんだということだと思いますが、どう考えますか。

生徒2

個性があるのはいいことなので、それをお互いに認め合うことが大切だと思います。

知事

違いがあるというのはすごくいいことで、南部と津軽のお互いの特徴を出し合って、その違いを認め合うことが大事だと思います。君は、どう思いますか。

生徒3

皆が違っていいと思います。

知事

皆が違っていいから、皆がいい。司会者にも聞いてみます。個性があることについて、君はどう思いますか。

司会

素晴らしいと思います。



知事

素晴らしい。この違いがあるということをむしろ大事にしたらいいと思います。その特徴を反目するのではなく、お互いに、いい方向で捉えて組み合わせたらどんなに面白くなるだろうと思います。組み合わせで乗り越えていくということが、とても大事だと思います。

次に、新幹線開業対策についてです。北海道新幹線開業は、非常に大きなチャンスだと思っています。これまでは東北地方とか、本州というくくりでいろいろなことをやってきましたが、北を振り向けば、函館、北海道があります。新幹線で結ばれるのを機に、改めて仲良くしようということでλ（ラムダ）プロジェクトを進めています。津軽海峡を挟んで、道南、つまり北海道の南と我々青森と、そしてまた岩手県北、秋田県北も含めて、新しい津軽海峡交流圏、津軽海峡観光圏、あるいは経済圏というものを作ろうということを始めています。例えば、青森県の方が函館に行って講演したり、あるいは函館の方のお米で酒を作ったり、向こうのパン屋が青森に来てパンを販売したり、青森のスイーツが向こうに行ったりということを始めています。イメージキャラクターはマグロをモチーフにした「マギョロウ」です。マグロ怪獣みたいなものです。北海道にイカール星人というキャラクターがいるので、一緒にキャンペーンをしたいと思っています。イカール星人と共に、この津軽海峡で騒ぎまくって、賑やかな海峡圏を作りますので、期待してください。

また、全国のJR6社が、ディスティネーションキャンペーンという、国内最大級の大型観光キャンペーンを青森県と道南地域を対象に実施することも決まりました。道南と私たちが新しい観光コンテンツを掘り起こして、さらに磨き上げ、それを商品にしていこうということも始まっています。青森県にとって、北海道新幹線の開業は最後となる新幹線開業なので、気合いを入れてやっていこう、新しくできる奥津軽いまべつ駅をどういうふうに皆で活用していくのかを研究しようということになっています。新幹線が北に延びるということを一生涯懸命活かしていきたいと思っています。ところで、将来の夢は何ですか。

発言者4

青森の食材を使ったパティシエになりたいと思います。

知事

嬉しいですよ。作ったら、是非食べさせてください。食材の中で一番注目しているのは何ですか。

発言者 4

やっぱり、りんごですね。

知事

りんごだよ。りんごも「ふじ」だけじゃなく、「トキ」という黄色いりんごが出てきたり、すごく酸っぱいりんごも出来ました。神戸の方にあるお菓子屋さんが、最高にいいスイーツの素材になると言っています。このお菓子屋さんが、非常に青森のりんごを評価しています。青森の食材は本当にいろいろな方々から注目されています。

司会

最後のテーマは「少子化を食い止めるために」です。

発言者 5（1年、男子）

僕の将来の夢は学校の先生になることです。しかし現状では、教員免許を持っているのに、学校の先生になれない人がたくさんいます。なぜ、そのような人が出てくるのでしょうか。自分なりに考えてみました。僕は、この原因のひとつは、少子化にあると考えました。僕の通った中学校も統合が決まるなど、今、青森県では少子化が進んでいます。もしこのまま少子化が進めば、県にも大きな影響が出ると考えられます。そこで僕は、少子化を食い止めるためには、女性が子どもを産む環境を整備することが大切だと考えました。近年、女性の社会進出が増え、そのため仕事と家事の両立が難しく、晩婚化が進んでいます。そうした女性たちを支援することが大切だと思います。また、知事はテレビ番組でインタビューが司会をしているお見合いの番組をご存知でしょうか。

先ほど知事がおっしゃっていた津軽と南部の交流を深めるためにも、津軽と南部でお見合いをしてみたらどうでしょうか。そうすれば、津軽と南部の仲も深まるし、また少子化を打破するための糸口にもなると思うのですが、知事はどうお考えでしょうか。

知事

少子化の話が出ました。青森県は、確かに結婚の数そのものも減っているし、若い人も減っているし、赤ちゃんも減っているという状況です。

青森県の場合、人口の自然減、つまり生まれる数より亡くなる数が多くなっていることに加えて、社会減がこれまでは大きな原因となっていました。社会減とは就職とか進学で県外に転出し、戻ってこないという状況のことです。そのため県内の雇用創出が大事だと言っていますが、有効求人倍率を見てわかるとおり、求人が増えてきたためか社会減はかなり少なくなっています。現在、決定的に人口減少の原因になっているのは、自然減です。将来、先生になることを目指してくれていますが、劇的に子どもの数が減る状況であることから、県では、高等学校の統廃合計画等を含めて、学校教育の改革に取り組んでいます。

出産の状況についてですが、合計特殊出生率は何とか1.40まで戻してきました。お母さんになる平均年齢は、全国よりは若いですが、約29歳まで上がってきていました。初婚年齢も、男性30.5歳、女性28.8歳と上がっています。初婚年齢が上がると、なかなか出産しにくくなるという現実があります。また、独身の方々のために、「あおり出会いサポートセンター」というのを作って、県としても婚活に力を入れています。会員は1千名まで増えましたが、それでも、なかなか厳しい状況です。

出生率の低下について、何が一番原因かということ等よりも、ここでお互いに関心確認したいことは、女性は子どもを産むために生まれてきたのではなく、人生を自分として生きるために生まれてきたのであって、単純に女性は子どもを産めばいいんだということではないということです。自分が思うのは、女性は人として生きてきた結果として、好きな人ができ、子どもを産みたいという気持ちになることが大事であって、我々行政が「結婚しろ、子どもを産め」と言うのは、すごく失礼だと思います。今日は女子生徒さんがたくさんいますが、それぞれの人生は、やっぱり自分で決めることです。本当に人を好きになって本当に産みたいと思ったときに産むのが一番です。だからこそ、男性が家事や料理をして応援しないと、助けあわないと絶対にできません。当たり前のことですが、女性がすごく大切なんだということをもう一度男性の皆さんに、確認してほしいと思います。ということで、今日来ている女性職員たちに一言聞いてみます。

女性職員 1

私は就職して外ヶ浜町というところに行き、青年団の活動に参加しました。そこでの活動がきっかけで結婚しましたが、当時は、知事とは違って何も家事をしてくれない主人でした。でも、最近では、ゴミ出しをしたり、自分で食事を作ったり、朝も私をゆっくり寝かせてくれたり、段々と協力的になってきました。やはり協力を得ながら進まないといけないんだろうなと思います。男性陣の皆さん、それから女性陣もお互いに甘えながら、でもどこかでやはり2人で力を合わせていくということがすごく大事だと思うので、そこを頑張っていたきたいと思います。



女性職員 2

うちの息子とお嫁さんは大学で出会って、卒業して離れ離れになったのですが、2年後に結婚しました。かわいい孫が産まれて、今はイクメンとして、お嫁さんよりうちの息子の方が頑張っているんじゃないかと思うくらい2人で頑張って家庭を築いております。私たちの世代になりますと、息子、娘には結婚していただいて、かわいい孫が欲しいなと思います。お母さん、お父さんのためにも、これから素晴らしい大学に行って、恋愛をして、素晴らしい伴侶、ボーイフレンド、ガールフレンドを見つけて、結婚して子どもをたくさん産んでいただけたらと思います。

女性職員 3

私も2児の母親です。今は、子どもがだいぶ大きくなったこともあり、少しずつ子育てが楽になってきています。でも、思い返すとやはり保育園に通っていた頃は、発熱などによる急な呼び出しがありまして、その度に主人と相談して、今日は私、明日は貴方というように調整しながら何とかここまでやってきました。でも、子どもを持つことで、多分自分も成長できているんだと思うことがいっぱいあります。大変なこともたくさんありますが、子育てを楽しむという意味でも、将来は、是非たくさん子どもを産んでほしいと思います。

知事

昔は同級生同士が結婚することもよくありましたが、最近はなかなか難しいようです。人を本気で愛して、本気で結婚するという気持ちをもっと持った方がいいなと感じます。

今日は、こうして司会も含めて6人と話をし、皆が、青森県を、そしてこの学校をすごく好きなんだなというのを感じました。また、皆が自分の人生をこれから生きていこうという力、エネルギーを感じました。

私たちの仕事は、君たちが社会に出た時にきちんと社会を継いでいけるようにサポートすることです。私は、皆がこの青森で次の世代も頑張れる、あるいは帰ってきたくなる、帰ってこられる、そういう青森を作るために全力で仕事をしています。だから皆さんにお願いしたいことは、全力で生きてほしいということです。人生の時間を大切にして、これからも歩んでください。今日は本当にありがとうございました。

司会

これで全発言者の意見交換が終了しました。今日は本当にありがとうございました。

